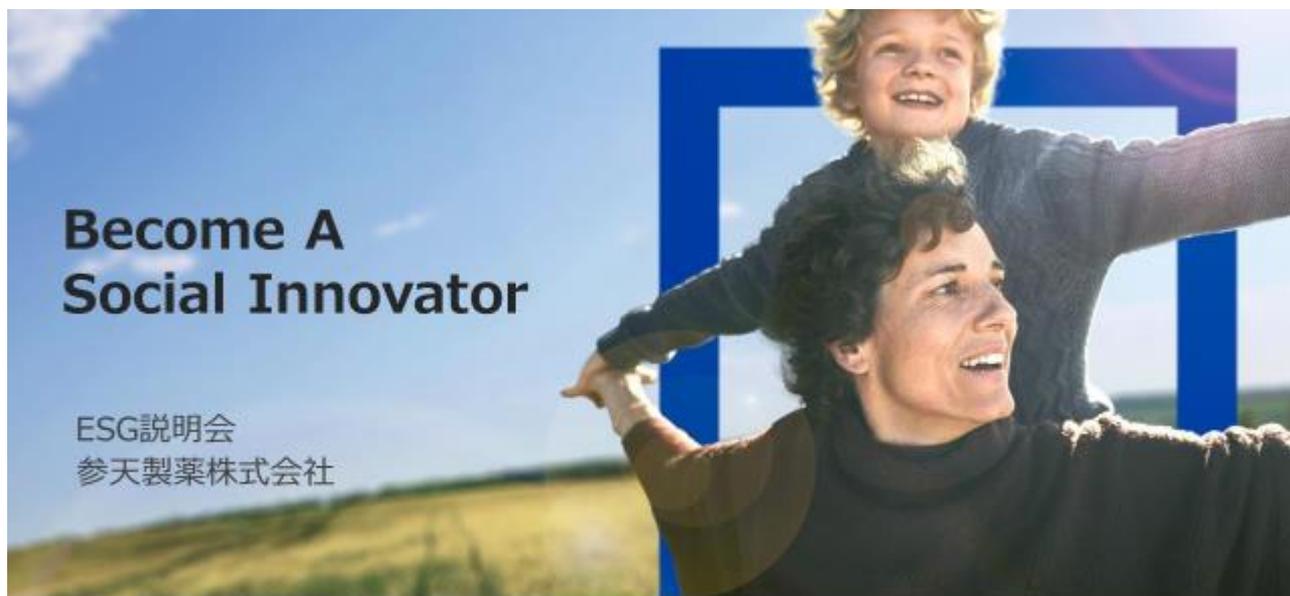


ESG 説明会



説明会：2022年3月31日

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

2 Santen

谷内：皆様、こんにちは。参天製薬株式会社 CEO の谷内でございます。ご多用の中、弊社として初めての開催になります ESG 説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

また、株主、投資家の皆様には昨今のアレジオンの薬価の引き下げ、こういった環境変化、あるいは直近の株価等、大変ご心配をおかけしております。また、日頃からの変わらぬご支援に、心から感謝申し上げます。

私どもは常に中長期的な観点、これを大事に社会的な課題に向き合いながら、事業を展開しております。その観点でも大変重要な ESG、この観点をいかに高めていくか。これについての初めての説明会ということもございますので、まずは私から Santen のサステナビリティ経営の全体像について、お話をさせていただきます。

これまで、そして今後も ESG と事業を一体化した経営により、企業の持続的な成長に努めてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

3 Santen

それでは、3 ページをご覧ください。

これまで目の重要性についてはご説明させていただいております。日常のコミュニケーション、あるいは芸術、スポーツ、こういった様々な場面におきまして、見えることが前提になっております。

そして、それが私たち眼科に特化した企業であります Santen の存在意義、あるいは社会的な価値、これの源泉でございます。

目の健康への取組みがSDGs達成に寄与



目の健康に関連するSDGs



*1 The Lancet Global Health Commission on Global Eye Health: vision beyond 2020.

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

4 Santen

4 ページ目をお願いいたします。

人々の生活に大きく影響する目の健康への取り組みは、国連が定めた SDGs の達成にも寄与しております。SDGs の 17 の目標のうち、教育、あるいは貧困問題、こういった八つに目の健康が深くかかわっております。

すなわち、目の健康を維持し、そして向上させていくことは、SDGs の達成にも大きく貢献していくことになります。

実際に目の健康に対する取り組みは、世界レベルで活性化しております。昨年 5 月に WHO 総会で、目の疾患に対するグローバルなゴール設定に関する目標が採択されました。そして、その後 7 月には、国連総会で目の健康に取り組むための決議が初めて合意されました。

また、並行して世界各国、各地域でも疾患別の啓発、あるいは対応が行われております。例えば、中国やアジアでは国家レベルで、既に近視に対する取り組みが積極的に進められております。

基本理念

天機に参与する

自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するということを意味しています。*

* 中国の古典「中庸」の一部をSantenが独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。

WORLD VISION

Happiness with Vision

世界中の一人ひとりが、Best Vision Experience を通じてそれぞれの最も幸福な人生を実現する世界を創り出したい。

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

5 

5 ページ目をお願いします。

こちらは、私どもの社名の由来となっております基本理念「天機に参与する」。そして、私ども Santen が目指す理想の世界である WORLD VISION 「Happiness with Vision」をお示ししております。

これを実現するために、日々の事業を通じて目の領域での社会課題解決を目指しております。

世界中の人々の社会的・経済的な機会損失の削減を目指す



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

6 

次に、6 ページ目をご覧ください。

Santen は世界中の人々の社会的な課題の解決に、三つの STRATEGY で取り組みます。また、中長期的な企業価値向上に向けた、ここにあります四つの ESG マテリアリティを策定しております。

つまり、事業と ESG が一体化した経営を掲げておりまして、これら両側面を合わせたものが、私ども Santen のサステナビリティ経営となります。

4つのESGマテリアリティ

① 社会的意義のある製品・サービスの開発・安定的供給

② 価値創造を促進する組織風土の醸成

③ ガバナンス強化・公正公平な社会実現への貢献

④ 地球環境保全

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

7 Santen

7ページ目に、この四つのESGマテリアリティにつきましてお示ししております。

私どもはこの四つのマテリアリティを社会の持続的な発展に貢献すること、Santenの中長期的な企業価値向上を目指し、設定しております。

① 社会的意義のある製品・サービスの開発・安定的供給

社会課題解決により、6,000万人以上の患者さんへ貢献

アンメットニーズ
への挑戦

医療アクセス
の向上



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

8 Santen

8 ページ目をお願いいたします。一つ目の社会的意義のある製品・サービスの開発・安定的供給につつまして、説明させていただきます。

Santen は目の領域の社会課題解決により、2025 年までに 6,000 万人の患者さんに貢献することを目標としております。それを実現するために、まだ治療法のない疾患など、アンメットメディカルニーズへの挑戦をしていきます。具体的には、細胞治療、あるいは眼瞼下垂、こういった新たな領域。既存疾患への新たな治療選択肢の提供などにチャレンジしてまいります。

同時に、眼科医療アクセス発展に向けた取り組みも行っております。特に中国、それからアジア、こういった地域では眼科医療が質、量ともに不足しておりますことから、医療従事者の育成の支援、ケイパビリティの拡大、疾患啓発などを自社およびパートナーと協働するなど、眼科領域のエコシステムの構築を進めております。

併せて、増加していく潜在需要に安全で高品質な製品を提供できるよう、供給体制を整えてまいります。

②価値創造を促進する組織風土の醸成

組織の多様性を高め、戦略実行力向上を実現



続いて 9 ページ、二つ目の価値創造を促進する組織風土の醸成です。

私どもは全世界 60 の国と地域でお客様、患者様と向き合い、事業展開をしております。それゆえ、各国のニーズをより深く理解できる多様性のある組織を構築することは、私どもの企業活動にとって欠かせないテーマだと認識しております。

あくまで一つの例ですけれども、例えば先日発表させていただいております、新たな執行体制を挙げたいと思います。もちろんこれは長期ビジョン、あるいは中期計画に向けました戦略の実行力の強化が主眼でございますが、日本人とその他の国籍がおよそ半々、あるいは女性が 24% を占める、それからグローバル 5 カ国に在籍する、16 名からなる多様性に富んだ執行幹部のメンバーで構成されております。

また、これまでも国や地域、それから視覚障がいの有無にもかかわらず、多様性のある社員が生産性をお互いに高めながら、いきいきと働ける環境整備を進めてまいりました。現在、日本では 4 名（Santen 追記：視覚障がい 5 名うち全盲 4 名）の視覚障がいのある方にご活躍いただいております、視覚に障がいのないメンバーとともに、様々な業務を遂行しております。

これらインクルージョンの取り組みにつきましては、後ほど森田からご説明させていただきます。

働く環境の観点では、この COVID によりまして内勤者のほとんどがテレワークの体制となり、大きな変化があったわけです。当社では COVID が収束した後も、もとの状態には戻さないことを既に決めております。

記載のとおり、Work from Anywhere、これを基本といたしまして、現在はメンバー一人ひとりが自分で働き方や働く場所を選択し、高い意欲、それから生産性をもって働ける体制を整備、定着させております。また、これが組織の多様性の向上へとつながるサイクルになってきております。

ガバナンス向上・内部統制強化への継続的な取り組み

情報セキュリティ強化



取締役会の実効性向上



10 ページ目、三つ目のガバナンス強化・公正公平な社会実現への貢献です。

デジタル化、それから働き方の多様化、あるいはグローバル展開に合わせまして、情報セキュリティを含む内部統制の強化にも積極的に取り組んでおります。

当社では ESG への取り組みを強化するため、DJSI などの外部評価も分析し、対応を実施しておりますが、例えばこの中の情報セキュリティの分野では、私どもは World の評価に引けをとらない水準に位置していると認識しております。こちら、詳細は後ほど原のパートで触れさせていただきたいと思っております。

また、先日アナウンスさせていただきましたが、取締役専務執行役員の伊藤も明日 4 月 1 日から、代表取締役副社長として、この任に就きます。このように、取締役会の実効性向上、あるいはガバナンスの向上に取り組んでまいりたいと思っております。

気候変動対策と環境負荷低減に向けて着実に進捗

- 2030年の環境目標 -



TCFD提言への賛同: 2022年6月 (予定)

11 ページ目をお願いします。こちらは、地球環境保全でございます。

昨年 2050 年の環境ビジョンと、2030 年の環境目標を策定し、気候変動対策、あるいは環境負荷の低減に向けまして、ご覧のような取り組みを着実に進めております。

また、先週リリースさせていただきましたけれども、既に日本の工場、研究所につきましては、予定よりも前倒しで電力の再生可能エネルギーへの切替えを完了いたしました。

また、6 月には気候関連財務情報タスクフォース、いわゆる TCFD への賛同を予定しております。

本日は時間の関係上、この環境への取り組みについては詳細ご説明することはできませんが、またいずれかの機会でお話しさせていただきたいと予定しております。

それでは、ここから少し具体的な各論に入りたいと思います。まずこの後、原からデジタルトランスフォーメーションの取り組み、そして森田から Santen のインクルージョンについてご説明させていただきます。

また、その後、この眼科を通じた社会貢献について、少し異なった角度からご理解を深めていただきたく、株式会社ビジョンケア、神戸アイセンター病院の高橋政代先生に、障がいの社会的価値についてご講演をいただきます。ぜひ最後までお付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

では、原にバトンを渡したいと思います。

経営を支える DXの取り組み

原 実
執行役員
CIO 兼
デジタル&IT本部長

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

12 Santen

ESGマテリアリティに対するDXの貢献

デジタル技術を用いた
眼科医療のプロセスイノベーション推進
- Social -

デジタルを活用したDE&I推進
・社員エンゲージメント向上
- Social -

デジタルガバナンス
に則った企業変革
- Governance -

DXを通じた
環境負荷軽減
- Environment -

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

13 Santen

原：参天製薬株式会社、執行役員 CIO、デジタル&IT 本部長の原でございます。経営を支える DX の取り組みについて、ESG の観点からご紹介いたします。

では、最初のページにいきます。

当社の ESG マテリアリティに対するデジタルトランスフォーメーション、DX の貢献は多方面にわたっておりまして、ESG の E、環境、S、ソーシャル、G、ガバナンスの領域、全てにかかわっております。本日は DX の貢献に関して、三つのポイントに絞ってご説明します。

一つ目は、デジタルガバナンスにのっとった企業変革という、デジタル IT 分野における事業と一体化した ESG のコアとなる、ガバナンスへの貢献について特に重点的にご説明いたします。

2 点目は、ESG 中の S、ソーシャルの取り組みとして、デジタル技術を用いた眼科医療のプロセスイノベーションの推進によって、全社レベルで掲げている社会的意義のある製品を安定的に供給していくことへの、デジタルからの貢献について、またデジタルを活用した DE&I 推進と社員エンゲージメント向上という切り口から、価値創造を促進する組織風土の醸成という全社目標を、DX が支えている点について触れたいと思います。

最後に、ESG の E、環境面への取り組みとして、DX を通じた環境負荷軽減という地球環境保全への貢献内容についてもご紹介いたします。

Governance

経営を支えるデジタルガバナンス

経産省デジタル
ガバナンスコード
に沿った**DX推進**

DX認定

**CDIO
ポジション設置**
(チーフデジタル&
インフォメーションオフィサー)

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

14 **Santen**

経済産業省が中心となりまして、デジタル技術による民間企業のビジネスモデルの変革や、グローバル競争力向上を促進するための各種施策の整備が進められています。

その中でもデジタルガバナンスコードという、DXに関する取り組みを推進するための経営者に求められる対応をまとめた指針、またDX認定制度という国内企業のDXの準備度を客観評価する認定制度が、経産省によって策定されております。Santenはこの両方の制度を既に活用しております。

まずデジタルガバナンスコードに沿って、ビジネスインパクト創出のために注力すべき領域を定め、体系的、かつ効率的にSantenのDX推進を加速させております。また、当社におけるDX推進のアプローチ、推進体制などの状況が審査によって認められ、今年に入り経産省からDX認定を取得しています。参考までに、3月1日現在のDX認定を受けている上場企業の総数は、301社です。

また、全社のデジタルガバナンスのさらなる強化のため、Santenにおいてこれまでなかったチーフデジタル&インフォメーションオフィサー、CDIOのポジションを新設し、4月から私が担当します。デジタルとITの力で組織のケイパビリティをアップグレードすることで、デジタルが会社の成長を後押しする一方、事業領域が拡大する中での事業継続リスクをIT面から抑えることを意図しています。

これらを牽引する統合的なCDIOの役割を明確にすることで、デジタルの推進を組織面からもさらに本格化してまいります。

ステークホルダーを守る世界水準の情報セキュリティ

ISO準拠の
情報セキュリティ方針に基づき
事業継続性を担保

セキュリティ&DXガバナンスの
**グローバル組織化・
トップ人材の配置**



次に、ガバナンス強化の別の切り口として、Santenのビジネスにおける、ステークホルダーを守るための情報セキュリティの取り組みについてご説明します。

当社では、ISOの標準に準拠した情報セキュリティ方針を掲げております。事業の継続性を担保するために必要な様々な対策を、これによって実施しております。

例えばビッグデータなど、デジタル技術を活用したサイバーセキュリティプロセスや、オンラインのゲーミフィケーションを利用した社員向けセキュリティ訓練など、先進的な取り組みも進んでおり、直近のDow Jones Sustainability Index、DJSIによるESG評価においては、情報セキュリティの項目でWorld Indexを上回る水準を達成しております。

また、それらを実行するために必要となるセキュリティとDX分野のガバナンスを支えるため、地域横断型のグローバル、かつスリムなアジャイルな組織。アジャイルといいますのは素早く機敏なサイクルを回せる組織のことを指しますが、こういった組織を編成し、グローバル各地域ともに高い専門性を有するトップ人材の配置を進めており、ここ数年、組織ケイパビリティが向上してきております。

執行の実効性を高める内部統制の向上



次世代ERP導入

社内プロセスの
グローバル標準化と
透明性を向上

データ利活用

経営の意思決定
スピードの向上

続いて、内部統制を高める施策についてお話しいたします。

執行の実効性を高めるために必要となる内部統制を向上させるため、次世代 ERP の導入を進めております。社内プロセスのグローバル標準化と透明性の向上をさせ、ビジネスモデルの変革を加速するためのプロジェクトとして、私が現在拠点としている欧州のコアチームのリードの下、グローバルレベルでプロジェクトを進行しております。

これと同時に、統合化、また標準化されたデータ基盤の構築により、データ利活用を促進し、経営の意思決定スピードのさらなる向上を目指しています。

以上、ご紹介したデジタルガバナンス、情報セキュリティ、ERP による内部統制の三つのテーマにつきましては、コーポレートガバナンス向上に資する重要なテーマとなりますので、取締役会での年に数回の討議や定期的な報告などを通じ、取締役会との連携を密にしながら、各テーマの執行を進めております。

眼科医療におけるプロセスイノベーション

Provider



オンライン医療プラットフォーム



People



モバイル
アプリ



では、次のテーマにまいります。ここでは、ESGのソーシャル分野の取り組みとして、眼科医療におけるプロセスイノベーションの例を紹介します。

眼科エコシステムの重要なプロセスを進化させるべく、例えば医療従事者、医療機関に対するオンライン医療プラットフォームの充実を進めております。例として、アジア地域における SantenMD や、欧州における SANTEN EYECARE EDUCATION、SEE プラットフォームなどの展開があります。アジア事業を展開されている SantenMD という、眼科医向けの最新情報を提供するモバイルアプリは、既にアジアのターゲット医師の60%にあたる、約6,500名の眼科医が利用しています。

2月にフランスとオランダで開始した SANTEN EYECARE EDUCATION は、欧州の眼科領域の専門家の持つベストプラクティスへのアクセスが簡単になり、眼科医が自身のペースで内容をカスタマイズすることができ、ゲーミフィケーションの要素も取り入れた、新しい教育プラットフォームとなっています。今後、ドイツ、オーストリア、スイスへの展開も予定されています。

また、患者さんや一般生活者を対象として、独自のAI画像認識技術を用いた、瞳のうるおい度をセルフチェックできるモバイルアプリ等を展開しています。

そのほか国際社会への貢献として、国連機関である国際電気通信連合、ITU と世界保健機構、WHO が共同で実施している Be He@lthy Be Mobile という、官民連携であるパブリックプライベートパートナーシップのフレームワークにも、2年前からパートナー企業として参画しております。CEO の谷内からも紹介がありましたが、昨年 WHO や国連における目の健康に関する決議が採択されて、注目が集まっている中でのタイムリーな取り組みとなります。

その一環として、途上国向けの近視とその予防についての啓発や、ヘルスリテラシーの向上を目的としたデジタルヘルスのプログラムの開発が進んでおります。

眼科に特化したスペシャリティカンパニーとして、今後もこのような持続可能な開発、SDGs への参画も継続していく予定です。

Social

デジタルを活用したDE&I推進・社員エンゲージメント向上

多様な人材がDX推進に貢献

DX推進のプロセスを通じて
新しい働き方とDE&Iが定着



FY21 Q3 Global DIT
Virtual Townhall
Meeting
Nov 16, 2021

Meta (Facebook) の「Horizon Workrooms」
による社内でのメタバース活用風景
出典：Horizon Workroomsの画面キャプチャ

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

18 

もう1点、ソーシャルの取り組みの事例として、デジタルを活用したDE&I推進や、社員エンゲージメント向上についてもご紹介します。

グローバル化が加速しており、多様なバックグラウンドを持った人材が地球上のあらゆるところから、また様々なライフスタイルの中で新しい働き方を模索する中、Santenではコロナ禍で進化したデジタルワークプレイスの環境を駆使し、働き方の分野でもDXの推進をしています。

最近では、一部で VR、仮想現実の技術やメタバースの活用も始まっています。また、目の障がいを持った社員向けの、デジタルツールのアクセシビリティの向上の検討も進んでいます。

このようなかたちで進めているデジタル推進のプロセスを通じて、社内の新しい働き方である Work from Anywhere の進展、DE&I の定着、その結果、社員エンゲージメントの向上につながる良い循環ができています。

Santen の企業風土に共感する優秀な人材の獲得、また会社のケイパビリティの底上げにつながるように、Santen ならではのデジタルワークプレイスのかたちを、さらに進化させていく予定です。

Environment

DXを通じた環境負荷軽減

デジタルワークプレイス

クラウド化加速
電力消費低減・
電子廃棄物 (e-Waste) 削減

スマートファクトリー化



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

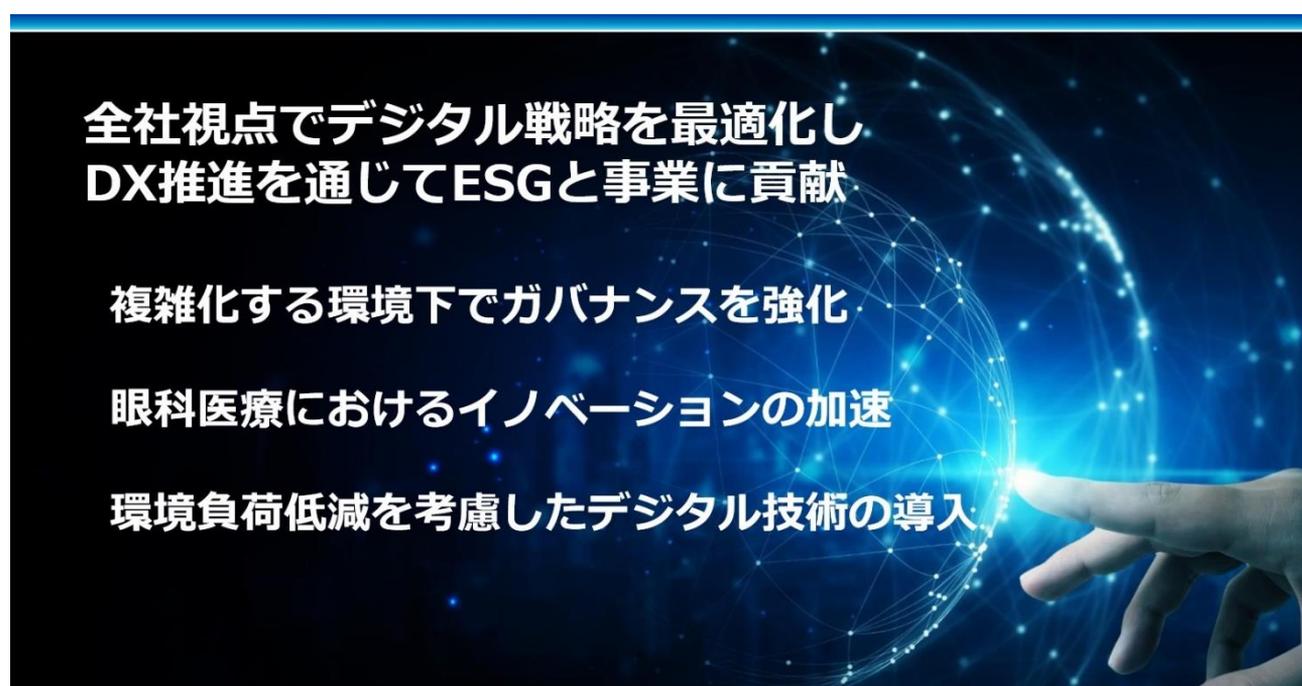
19 Santen

最後に、ESG の E、地球環境保全へのデジタルの活動の貢献について触れたいと思います。

Santen が推進するデジタルワークプレイスの進化により、社員の移動が削減、また確保すべきオフィススペースの削減、さらにペーパーレス化が飛躍的に進展し、環境保全への貢献が進みました。

また、クラウドコンピューティングへの移行の加速により、会社で保有するコンピューター資産全体の電力消費量の低減や、e-Waste と呼ばれる電子廃棄物が画期的に削減されています。当社の IT 環境のクラウド化率は大変高く、環境だけでなく事業継続の担保にも貢献しています。

また、生産拠点のスマートファクトリー化を進めており、今後工場におけるデジタルによる環境負荷軽減も期待されます。



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

20 **Santen**

以上、DXの貢献について3点お話しさせていただきました。

1点目は、全社視点でデジタル戦略を最適化しDXを推進することにより、複雑化する環境下でガバナンスを強化している点、2点目は、眼科医療におけるイノベーションの加速、3点目は、環境負荷低減を考慮したデジタル技術の導入など、事業と一体化したESGの重要テーマにデジタルが貢献している点に関して、お話しさせていただきました。

今後もさらなる貢献を目指すべく、推進を加速してまいります。

私からのDXに関する内容は以上となります。次は弊社の森田から、インクルージョンの取り組みについてご説明いたします。

Santenが取り組む インクルージョン



森田 貴宏
執行役員
企画本部
基本理念・CSR担当

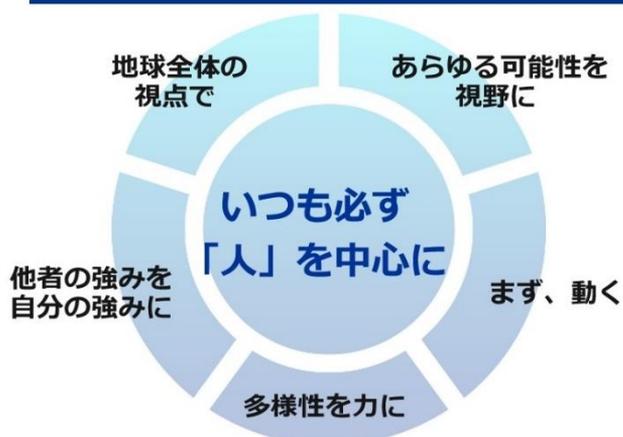


Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

21 Santen

大切にしている価値観と行動指針が「VALUES」

世界中の一人ひとりが「見る」を通じて幸せな人生を実現するために



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

22 Santen

森田：基本理念・CSRを担当しております、森田です。私からは、Santenが取り組むインクルージョンについてお話をさせていただきます。

ビジョンで掲げております、「世界中の一人ひとりが『見る』を通じて幸せな人生を実現するために」、われわれはいつも人を中心に考え、六つの行動指針に従って行動しています。これらの価値観と行動指針がVALUESです。

目指すインクルージョン社会

視覚障がいの有無に関わらず活躍できる社会を実現



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

23 Santen

Santen が目指すインクルージョン社会とは、視覚障がいの有無にかかわらず、いきいきと共生する社会です。この実現のため、われわれは WHO をはじめ世界規模の組織、多くのパートナーとともに、インクルージョンに関する目にまつわる社会課題の解決に向け、取り組みを進めております。

インクルージョン社会への取り組み

Blind Experience

- ① 社会全体のマインドセット醸成
- ② 医療-福祉の連結
- ③ 経済的自立支援
- ④ ソリューションの普及

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

24 Santen

それでは、ここでインクルージョン社会実現に向けた大きな考え方をご説明させていただきます。

Santen は、Blind Experience という考えを大切にしています。このアプローチは見えない体験を通じて、失明や視覚障がいに対する人々の認知、理解を向上させることで、無意識のバイアスをなくし、晴眼者と視覚障がい者の間にある壁を溶かしていくものです。

また、ともに楽しみ、価値観を共有する。そして、QOL 向上へ、新たなソリューション探索にまでつなげていきます。この見えない体験は会長の黒川、社長の谷内、取締役の伊藤など、経営幹部も率先して取り組んでおり、国内のみならず全従業員へ展開しております。

Blind Experience を通して、四つの大きな目標にチャレンジしております。

一つ目は、社会全体のマインドセットの醸成です。社会全体の視覚障がい者に対する認識や、視覚障がい者自身の考えを変えていくことこそが、活動の基本と考えております。

二つ目に、多くの視覚障がい者が訪れる眼科医療から、福祉への橋渡しを試みております。

三つ目は、ともすれば経済的な自立が難しくなりがちな、視覚障がい者の自立を促すような支援です。

そして四つ目、最後が視覚障がい者、その周辺の人々にも多くの幸せが得られるようなソリューションを普及させていくことです。

従業員アンバサダーによる社内風土・環境改革



それでは、ここから具体的な取り組みについてご紹介させていただきます。

まず、社内の取り組みについてです。

視覚障がい者をはじめとしたアンバサダー従業員による見えな体験を、グローバルで全従業員に展開し、さらには働きやすい職場環境の整備や、視覚障がい者の職域開発も進めています。

見えな体験を実施した従業員の意識、行動が変化し、目の健康の重要性、目に貢献する会社で働くことの意義、そして会社の理念への共感を深めるなど、従業員のエンゲージメント向上にも大きな影響を与えています。

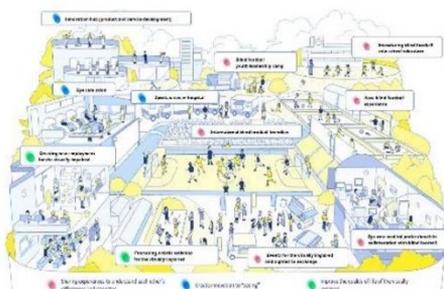
職場環境の整備は視覚障がい者のみならず、晴眼者の生産性も向上させると考えております。また、職域開発に関しましては、現在4名から5名の視覚障がい者を採用していますが、人事、企画、社内のインストラクター、教育といった様々な役割で活躍しています。

①社会全体のマインドセット醸成

ブラインドサッカーを起点にグローバルでの取り組み

JBFA/IBF-foundation

視覚障がい理解、ともに楽しむ機会創出



パートナービジョン



日本：教育現場での体験会



タイ：ブラインドサッカー体験会

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

26 Santen

次に、社外の取り組みについてご紹介いたします。

日本ブラインドサッカー協会、International Blind Football Foundation 様と 2030 年までの長期 10 年間のパートナーシップを締結しており、共通のビジョンを掲げ、ブラインドサッカーを起点にグローバルで取り組みを進めています。

学校では子どもたちに見えない体験会、国内外で視覚障がい者児童にブラインドサッカーの体験会、また視覚障がい児童、その親も含めたキッズキャンプに従業員がボランティアとして参画するなど、様々な取り組みを行っております。

われわれは視覚障がい者と晴眼者が交わる場、機会を創出することが、相互理解を深め、インクルージョン社会想像の第一歩だと考えております。

これらの取り組みは Santen をより理解いただくことにもつながっており、近年、企業志向の変化も相まって、学生からの高い評価にもつながってきております。

医療分野へのアプローチ

地域眼科コミュニティー



眼科学会展示・見えない体験



視覚障がい者による講演会



医療施設・見えない体験

目の社会課題を再認識する機会提供

医療分野へのアプローチにも力を入れております。例えば、眼科学会での展示やそこでの見えない体験、先生方を対象としたイベントでの視覚障がい者による講演を通じて、眼科コミュニティに対し改めて社会課題を認識いただけるよう、工夫を凝らした企画を実施しております。

これらの活動により、眼科医や医療従事者とのコミュニケーションがさらに活性化し、今まで以上に強いつながりを築くことができていると感じております。

視覚障がい者学生向けの取り組み

就職支援ワークショップ

- ✓ 自らを理解する機会
- ✓ 視覚障がいを強みに
転換

視覚障がい学生対象 自身の強みを分析する オンラインワークショップ開催のお知らせ

こんな方にお勧めします

- ・一般企業で就職を考えている視覚障がい学生（大学2年生から4年生対象）

参加後はこんな理解が深まります

- ・労働市場における自分自身にとっての機会を分析することができます。
- ・自己分析を通して、労働市場に対しての自分の強み・弱みを発見し、キャリア形成に活用することができます。

労働市場における立ち位置を確認したうえでキャリア戦略を作ることは、視覚障がいの有無にかかわらず、キャリア形成における重要な要素のひとつです。私たち参天製薬では、視覚障がい者が生き生きと活躍できる社会の実現を目指しています。視覚障がい学生にとってアクセシブルなキャリア形成ワークショップが少ないことから、今回の実施を決めました。就職活動中あるいはこれから就職活動を始める視覚障がいのある学生のみならず参加いただき、自身のキャリア形成に役立てていただければ幸いです。



次に、経済的自立支援についてです。

視覚障がい者学生向けの就職支援ワークショップを始めました。ワークショップでは、自らを理解し、キャリア形成について考える機会を提供しています。

参加した学生からは、自分を知る良い機会であり、今まで知り得なかった同世代の同じ環境の人たちとの対話を通じて、多くのことを学ぶことができたという感想や、視覚障がいを強みとして活用できることを理解したというコメントがありました。今回、われわれも社会的に初めての試みでしたが、非常に有意義な機会を提供できたと感じています。

このことはわれわれのゴールである、目の疾患や不具合に起因する世界中の人々の社会的、経済的な機会損失を削減することにもつながります。

「アクセラレータープログラム」で“壁”を溶かす 新規事業創出支援

1. オンラインの壁
2. オフラインの壁
3. 能力の壁
4. 働き方の壁
5. つながりの壁
6. 思いがけない壁



視覚障がい者／学術アドバイザー／企業／NPOとの協働

最後に、ソリューションの普及についてお話しさせていただきます。

われわれはQOL向上の取り組みとして、アクセラレータープログラムを始めました。これは視覚障がいにかかわる壁を溶かす六つの領域に対して、新規事業創出を目指す企業や団体からの事業化アイデアを募り、財務的支援のみならず、視覚障がい者もかかわってサポートし、事業性を追求する製品や、サービスの創出と実装までを支援するプログラムです。視覚障がいがありながらもビジネスの最前線で活躍するメンターや、アドバイザーなどと協働して取り組んでおります。

多くの企業や人々に参画いただくことで、新しい製品やサービスによりQOLを向上させ、また新たなビジネスにもつなげていきたいと、大いに期待しております。



Happiness with Vision



Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

30 

以上のように、われわれは多くのステークホルダーとともに、目にまつわる課題解決を通じて、社会へ貢献してまいります。そしてこの取り組みを通して、従業員のエンゲージメントを高め、Happiness with Vision の世界観実現につなげていきたいと考えています。

私からのお話は以上です。

それでは、高橋先生にバトンをお渡しいたします。高橋先生、よろしくお願いいたします。

障がいの社会的価値について



株式会社ビジョンケア
神戸アイセンター病院
高橋政代

Nation Eye Institute @NIH new director

バイオメディカルインフォマティクスとテレヘルスリサーチにおける彼の成果は、
将来のビジョンリサーチに特に重要な役割を果たす

2020年7月

2018.5 Googleが狙う次の「覇権」は医療

米アップルが人類に最も貢献するのは健康分野になる

NIHホームページより：<https://www.nei.nih.gov/about/news-and-events/news/nih-selects-dr-michael-chiang-director-national-eye-institute>

2

高橋：株式会社ビジョンケアの高橋です。まずは今日どうして、ここで私がお話しさせていただくかというご説明をさせていただきます。

私たちはずっと目の再生医療を開発しております。それはなんとと言っても視覚障がいの方のウェルビーイングを目指したものです。製品をつくるだけにとどまらず、治療をつくるのが大事です。

もっと言いますと、医療だけでは助けられない部分、そこも含めて課題を解決しようと思っております。

その目的、視覚障がいの課題を解決する、それが全く Santen の目標と一致していることもあると思いますが、いつも真のインクルージョンの話を谷内社長とさせていただいても、本当に腹落ちして、全部理解していただけるという感じがしておりました。

そうしたことで今日、お声がかかったのかなと思いますけれども、もともと Santen はずっと眼科と一緒に歩んでくださって、眼科をつくってきた会社です。

例えば白内障手術。私自身、白内障手術の練習は、模擬手術を Santen の方と一緒にさせていただきました。そういうふうに手術まで分かっていることで、いろいろなお話が分かっていたと思います。

この記事は、眼科が変わるというものであります。これから医療がどんどん変わってきます。アメリカなどでは、眼科は最も先端をいくもので、トップ 3%のドクターが行く科となっております。

実際、眼科の世界最高峰のポジション、世界一のアイセンターのセンター長が 20 年ぶりに変わったんです。その方が若いアジア系の人ですが、メディスンではなくテレヘルスの専門家であると。これはまさに、Google や Apple が医療に参入することとともに、医療の方向性を眼科が最も早く示しているということだと思えます。

大医 中医 小医



「小医は病を医す
中医は人を医す
大医は国を医す」

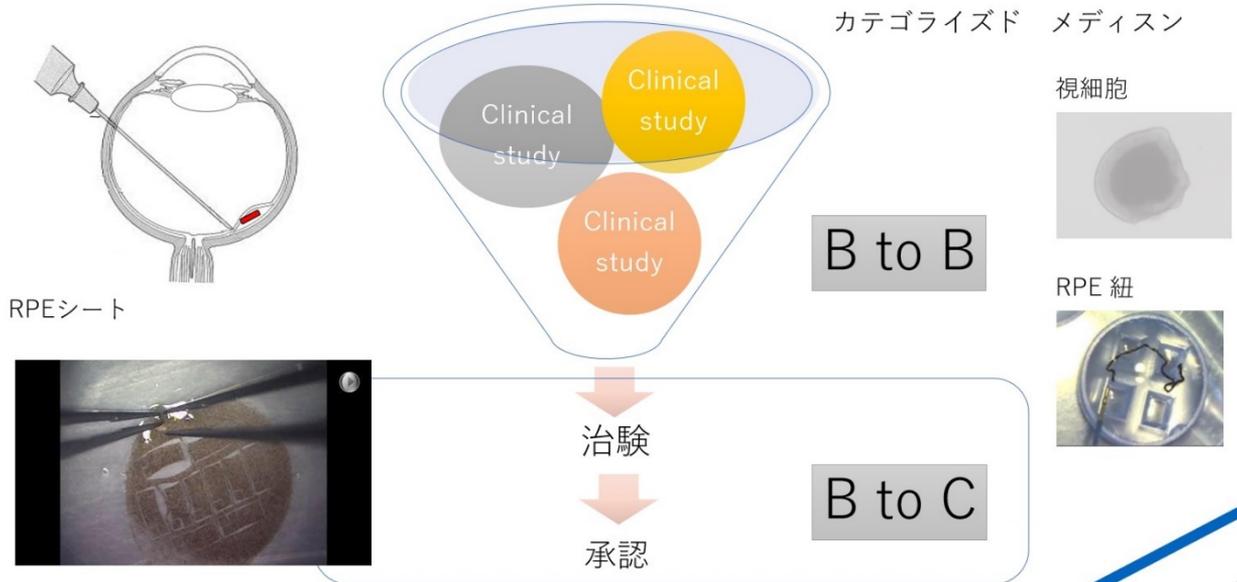
六朝時代の陳延之の著書『小品方』に
「上医医国、中医医民、下医医病」の語があり、
これは『国語』晋語八の「上医医国、其次医人」に由来するものであろう

3

眼科は疾患の診断などは多くが AI でできるようになっております。そうしますと、人間の医者は何をするのでしょうか。その答えは、アジアでは昔から言われております。小医は病を医す。中医は人を医す。大医は国を医す。

私も京大の医学部の 1 年生のときに、この言葉を習いました。ですので、なおさら再生医療で製品をつくるだけではいけない。治療にしないといけない。そしてまた病気を診るだけではなく、そこは AI で置き換わるかもしれませんが、全人的医療をすることで将来の医療を担っていけると思っております。

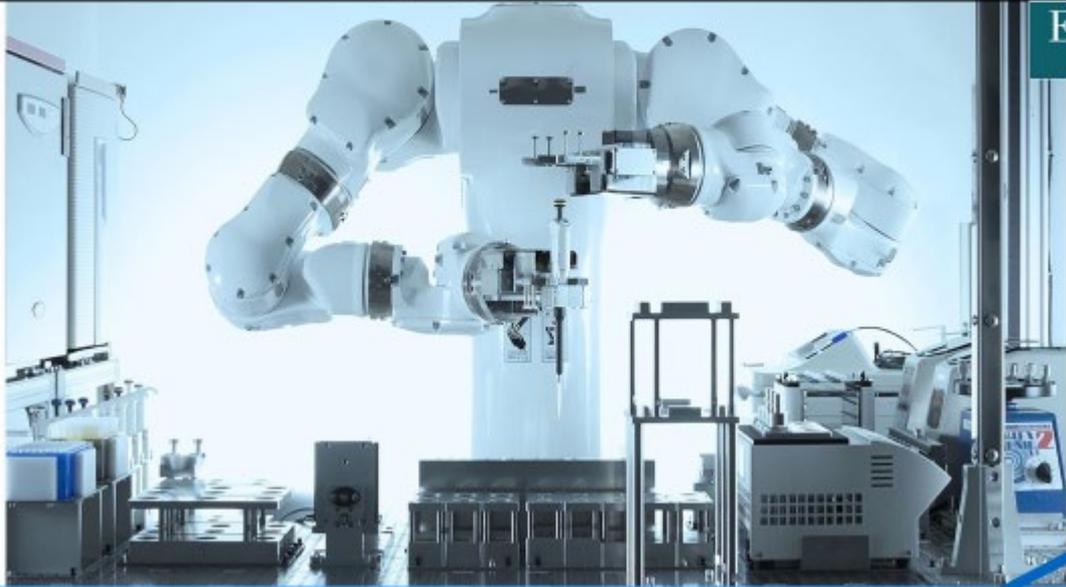
網膜再生医療



そういう観点でいきますと、製品をつくる観点だけではなく、どうしたら医療にできるだろうか。本当に効く治療あるいはどの患者さんに適しているのか、そういうことを調べる必要があります。

その部分は日本の特徴であります臨床研究という仕組みで、リバーストランスレーショナルリサーチも使って、これまでわれわれ、世界に先駆けて何回もトライ&エラーと言いますか、良い治療にする改善を行い、やっと治験あるいは本当の治療になる段階にきましたので、事業を立ち上げております。

最近、われわれはこのiPSからつくった網膜色素上皮のシートに加えて、紐状にして小さな穴から安全に手術できる方法。そしてまた悲願でありました、視細胞の移植、すなわち中枢神経の再生、しかもオルガノイドという組織の移植にまで到達しております。



また、再生医療における細胞というのは、生ものでありながら手術とともにある医療機器であるという、第3のカテゴリーです。現在、細胞製造は人が行っております。周りの器械はバリデーションをとっているにもかかわらず、細胞製造者の手技はバリデーションがとられておりません。

私たちはそこに着目しまして、その作業手技をバリデーションのとれるロボットでやるという変革も行っているところです。

企業の形態

	会社の領域	作成物
2次元	細胞製造販売会社 製薬業モデル	細胞
3次元	網膜細胞治療 (医療機器モデル?)	医療
4次元	網膜医療総合商社 未知の形態	社会

4次元の会社を目指す

最初に言いましたように、細胞をつくる、製品をつくるのはわれわれ2次元と考えておまして、それでは再生医療は成り立ちません。ですので、患者のセレクション、あるいは効果判定の方法、拒絶反応のテストも含めて、医療をつくっていく3次元の会社に既になりつつあると思っておりますが、今後さらにそれ以外の、医療以外でも課題を解決する4次元の会社を目指しているつもりであります。

神戸アイセンター



建築家 山崎健太郎さん
ブックディレクター 幅允孝さん

公園 = 誰でも入れます！

エントランスフロア Vision Park



IDEA賞 グッドデザイン賞

8

そのためにつくったのが、神戸のアイセンターです。ここは病院らしからぬエントランス、段差が多いというか、段差でできている空間をつくっておまして、非常にお洒落に、誰もが楽しめる場所をつくりました。

これはその上にある外来で受診された患者さんが、いろんな器具とかいろんな情報を得られる、あるいは患者ケア、メンタルケアも含めて、そういうことをメインのエントランスフロアに持っているという特徴があります。



医療と福祉の橋渡し 真のインクルーシブを目指して



- 医療と福祉の溝 紹介者の1割→ほぼ10割
- ドクターが喜ぶビジョンパーク
- 福祉から見えない障がい者 障がいはグラデーション
- 早くケアしないと固まってしまう！
- 縦割りの打破、横の連携 患者さんオリエンテッド
- 障がいの価値を知る
- 施しの福祉から真のインクルーシブへ

心的安全性 満足 = 医療の目的

9

このエントランスフロア、お洒落なものです。ここでは、医療と福祉の溝を埋めるのが一番大きな目的でありました。

真のインクルーシブを目指す。ですから、福祉が障がい者の方だけを対象として、離れてやるのではなく、こういうふうにいるんな人が来られるところ。そこで障がい者の方が安全に見守られながら、こういう段差にチャレンジするとか、そういうことをしますし、福祉の方々にこのフロアに来ていただいて、毎日相談に乗ってもらっています。

そういうことで医療からなかなか福祉に紹介しても、患者さんが行っていただけない。治療がもうおよばない状況になった場合に、そこで諦めるのではなく、そこから生活を改善するための福祉、あるいはそういう情報が、ここでワンストップで得られることを目指しました。

既に医療と福祉の橋渡しは大成功しておりまして、福祉側の方も縦割りがなくなり、教育のほうも盲学校とかそういう方も来ていただいて、非常に輪が広がっています。

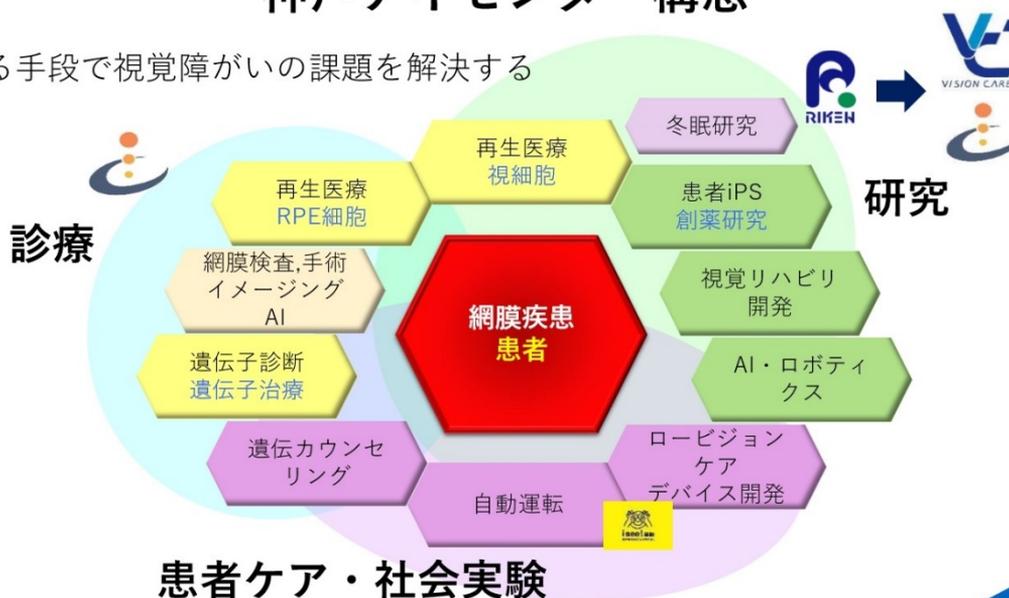
何よりも喜んだのはドクターです。医療がおよばない方、ケアに行ってくださいと言っても、なかなか行ってくださらなかったのが、2階で相談してくださいと言うだけでつながることで、実はドクターが一番ウェルビーイングになったかもしれないという施設であります。

実は障がいはグラデーションなんですけれども、福祉は、ともしますと重度の方、全く見えない方にしか目がいきませんが、ケアは実は早くしないと病気と一緒に、手遅れになるとなかなかうまくいきません。そういう意味でも、あらゆるグラデーションの障がいの方が来られる病院が、非常に良い場所かなと思っております。

その中で、われわれますます確信を持ってきましたのは、障がいの価値というものです。（これは後でお話しいたします）それとここが あること によって、患者さんの満足度が非常に上がった。そうしますと、治らなくても医療の目的はやはり心的安全性、満足が得られることが非常に重要であることを、ますます実感しております。

神戸アイセンター構想

あらゆる手段で視覚障がいの課題を解決する

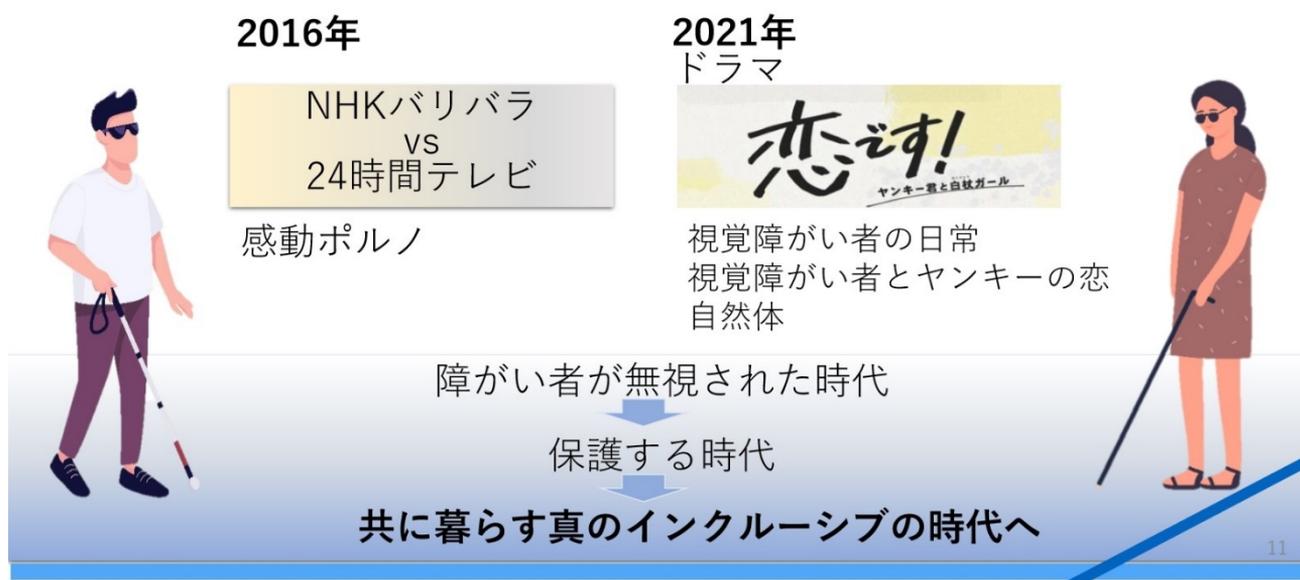


10

この福祉とつなぐ、あるいは患者さんのケアは何もボランティアでやっているとか、施しの福祉をやるわけではありません。われわれ、今までずっと研究を続けていた中で、主に網膜の患者さんを中心にその課題、ニーズを中心に、いろんなことをやってきました。それが ある時点 で点と点が線につながる。あるいは面になっていくのを随所で経験しました。

こういう何もなかったところに、これだけのことが積み上げられてきた。これは何より障がいという課題がある、ニーズがあるということです。こういう新しいこと、イノベーションを起こす原動力になるものであるという価値を、本当に感じているところです。

視覚障がいのイメージ変革



Santen は、ここを非常に理解していただいているとびっくりするんですけども、視覚障がいのイメージは変わってきておりますし、福祉も変わるべきであります。時代は流れております。

昔は障がい者が無視され、家に閉じ込められて、外に出るなど言われたような時代もありました。それがそれではいけないということで、福祉制度ができて、保護する。ただ、かわいそうな人たちだから助けてあげないといけない、そういう時代が長く続いたと思います。

2016年、NHKの「バリバラ」という番組で、その裏でやっていた「24時間テレビ」のような、障がい者の方たちが非常に素晴らしい働きをしたり、すごいことに挑戦したりということを紹介する番組がよくありますが、それに対して、感動ポルノはやめてくれと障がい者が言っているのを流しました。

私はびっくりしてネットの反応を見たんですけども、非常にそうだという声がたくさん出ておりまして、ああ、時代が変わったなということが分かりました。それまで、無視されていたところから保護する時代にするために、「24時間テレビ」は非常に大きな役割を果たしたと思いますけれども、もう時代は流れて、かわいそうな人に施してあげましようではなく、ともに暮らす真のインクルーシブの時代へ、社会全体が動いているなと実感いたしました。

そう思っていますと 21 年には「恋です！」というドラマがありまして、これは私たちの業界ではすごい反響だったのですが、非常に面白くて、視聴率も良いドラマでした。画期的であったのは、視覚障がい者、かわいい女性で、その方の本当に日常、普通の生活。われわれは知っているんですけども一般の方は知らない。その生活が描かれておりました。

普通に泣いて笑って、別にすごい力で頑張るのではなく、普通に生活している。それで楽しく過ごしている、全く見えないわけではない方が取り上げられて、時代のエポックメイキングなドラマであるとわれわれは思いました。これこそが、ともに暮らす真のインクルーシブ時代への画期的なメッセージかなと思っています。

公益法人 NEXT VISION



失明をすぐに無くせないが、絶望は無くす！

12

まさにそういう時代をつくりたいと思ってやってきた i see ! 運動。病院のエントランスフロアを運営します公益法人 NEXT VISION、これがまさに目指したところであります。

われわれは、失明は完全になくすことはまだできませんけれども、絶望はなくせると考えております。

デジタルロービジョンケア



東大先端研 東京医大眼科 産業医 Gift Hands CEO 三宅琢



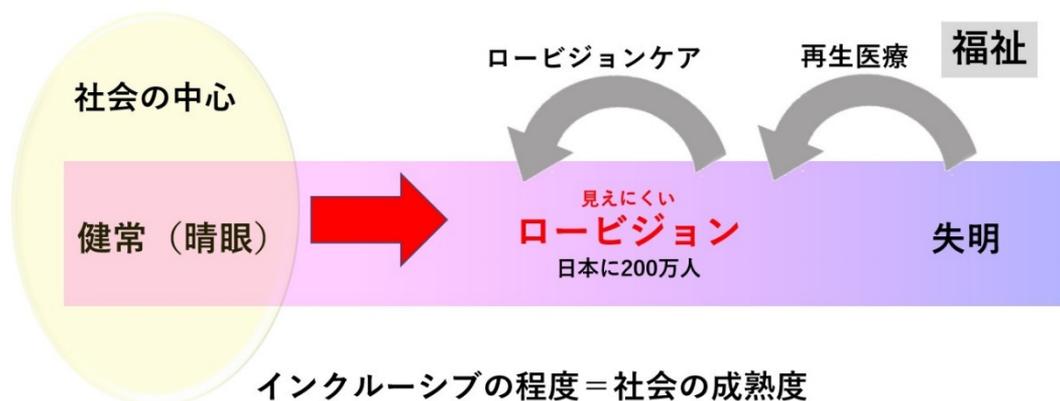
13

その大きな武器が、医療ではなくデジタルなどのテクノロジーです。われわれと一緒に NEXT VISION をやっております三宅琢先生、この先生はいち早く iPad などの可能性に着目して、デジタルロービジョンケアを普及させました。

こういうテクノロジーは、全く見えなくても使えるものがたくさんあります。今では指させば読んでくれる眼鏡、AI の入ったものとか、あるいは暗いところでも見える眼鏡、そういうものがどんどん年々出てきておりまして、医療の発展よりもずっと早く進んでおります。

病院に来た方がそういう情報を知らずにいるのはとても残念なことです。こういう新しい情報を集めてお伝えする。それは再生医療を求めて来られて、でも思ったほど見えるようにならない。そういうふうにがっかりされる患者さんに、プラスアルファこういうことを情報提供することで、ウェルビーイングを追求すると思っております。

障がいのグラデーション



真のインクルーシブは健常者にも優しい

14

こういうことを考えますと、少しの障がいは全く解決可能なことであります。視覚障がいという言葉のイメージで、何もできない、どうしようもないというイメージが付いておりますけれども、軽い方はそういうテクノロジーで、全く普通に仕事もできます。またその課題を解決することで、ほかの一般の方にその技術が必ず普及して便利になるのは、歴史の中で証明されております。

最近の健康幻想と言いますか、以前は医療がおよばなくても仕様がないうところもあったんですけども、最近是非常に治るものが多いですので、患者さんも必ず治る。あるいは正常でないといけない、元気でないといけない。健康でないといけないという幻想にとりつかれて、それが苦しめているところがあります。

ですので、この社会の中心をあたかも正常な人だけでできている、そういうのではなくグラデーションの中の少し障がいがある。誰でも障がいを持っている。IT を使えないことは障がいの一つですし、誰でも持っている。英語をしゃべれないことも障がい、そういうふうに考えますと、真のインクルーシブとなっていくと思っております。

ニーバーの祈り

変わらないものを受け入れる寛容さ

再生医療でも元通りにはならない
よく見えるようになることはあきらめざるを得ない

変わるものを変えようとする勇氣

ロービジョンケアで読み書きができる
読み書きをあきらめるな！

そしてそのふたつを取り違えない英知

再生医療は、今まで変えられなかった自然の摂理に人類の智慧が勇氣をもって取り組む営みであり、
それをしても変えられない運命があることを
社会一般が広く理解するときに、最も美しく発展するのではないか。

15

最後のスライドです。

患者さんによく言う言葉です。再生医療を求めて来られます。運転したいんですって言われるのですが、そこまで治すのはちょっと難しいです。そのときに言うのは、再生医療がすごく成功したとしても、もとどおりにはならない。そこは諦めないといけない部分があるんですということを言います。

だけれども、読みたいことは目が治らなくてもできるんですよ。変えられるんですよ、そのシチュエーションはということをお伝えします。ところが、その二つを取り違えている人が非常に多い。ですから、取り違えていますよと言うだけで、生活が全然変わることを経験しております。

ですから、再生医療は今まで全く治らないと言われていた病気、中枢神経の病気、それを治すことができるかもしれないという、非常にチャレンジであるんですけども、それでも変えられない運命があることを社会が、一般が広く理解する。障がいはあるけれども、あるいはそれが当然であるということが社会に理解されたときに、最も美しく発展するのではないかと考えています。

振り返ってみますと、実はこの言葉、誰にでも当てはまる。障がい者の方だけではなく、われわれもみんなそうです。ともすると変わるはずのもの、日本のルール、変えられないんじゃないかと思

って停滞しています。ですので、この二つを取り違えないことで、あらゆる人が前に進めますし、プロジェクトもうまくいくし、私も会社もこういう考え方でいきたいなと思っているところです。以上です。どうもありがとうございました。

事業と一体となったESG経営により、社会課題解決へ

- ・ 目の健康への持続的な挑戦
- ・ 視覚障がい者を含むDE&Iの実現
- ・ ガバナンスの継続的な向上

Copyright© 2022 Santen All rights reserved.

31 

谷内：高橋先生、ありがとうございました。

改めて、私どもの見えることの大切さを通じた、また社会への貢献、私たちの貢献役割、こういったところについて、また身が引き締まる思いでございます。ありがとうございます。

それでは、スライドの最後、私、谷内から総括をさせていただきたいと思います。

われわれ Santen は社会課題解決に向けまして、事業と ESG、これを一体として考えております。

本日も説明させていただきましたとおり、一つ目、新たな領域への挑戦。それから質の高い製品・サービスの供給。眼科医療環境発展サポートなどの目の健康への持続的な挑戦。

それから二つ目、社内での環境整備や風土改革に加えまして、医療従事者の皆様、それからパートナーの皆様とも連携しながら、インクルージョン社会を実現していくこと。

そして三つ目、DXを活用し、継続的なガバナンスの向上に取り組みながら、サステナビリティ経営を推進してまいります。

本日はご説明できませんでしたが、環境、それから人材に関する取り組み等、ほかの全体的にESGにかかわるテーマにつきましては、今後、統合報告書、あるいは今後の説明会の中でも発信させていただければと考えております。

この後、Q&Aセッションに入りたいと思いますが、その前に一つだけ本日のESGの趣旨とは異なるんですけれども、明日以降、沈黙期間、クワイエットピリオドに入る直前ということもありますので、一つだけ事業に関する点につきまして、アップデートがございます。

以前からお話ししております、米国向けのSTN1011700、こちらにつきましては最初、3月末の再申請を目指すと前回の決算説明会でお話をしてございました。その後、製造委託先のFDA対応、こちらに若干遅れが発生しておりまして、まだ今日時点では再申請ができておりませんが、全体的なステップと言いますか、準備としては着実に進捗しております。

こちら、もちろん明日以降、可能な限り早い時点での再申請を行うべく、また先方関係当局との連携の上、引き続き準備を進めてまいります。また、こちらは5月の決算説明会のときに状況をお話しできると思いますので、そういった状況であるということでご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、ここで1回、プレゼンテーションは終わらせていただきます。

改めまして、ESGという観点でぜひ皆様方からも忌憚のないご意見、ご質問をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。